

平成29年5月吉日

日本赤十字社臨床工学技士会

会員各位

「会長就任挨拶」

日本赤十字社臨床工学技士会

会 長 脇田 邦彦

(旭川赤十字病院)

拝啓

会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は日本赤十字社臨床工学技士会活動に対しましてご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、平成29年4月に熊本で開催されました当会の常任理事会において第五期役員が決定致しました。

これまで会長を務められた秋田赤十字病院 医療技術部 技師長の熊谷 誠氏が勇退され、このたび 私、旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学技師長の脇田 邦彦が会長を務めることになりました。全国赤十字病院臨床工学技士を代表する立場となり身の引き締まる思いでございます。

2009年4月に我々の先輩達を中心となって「同じ赤十字の釜の飯を喰う仲間であつたやうや！」という強い志と、本社から「他の医療技術職は本社認定の組織があるにもかかわらず、臨床工学技士はいまだにない」との指摘、さらに本社とのパイプを持つ先輩が臨床工学技士待遇改善のために本社にもものを申しても、「赤十字の臨床工学技士はまともでないから臨床工学技士の総意とは受け取れない」などの厳しいご指摘もあり、その後の先輩諸氏のご尽力のお陰で日本赤十字社臨床工学技士会が発足したわけです。

初代会長は日本赤十字社医療センター医療技術部 臨床工学第2課課長の齋藤 郁郎氏が務められ、全国研修会やブロック研修会などの現在の活動が軌道に乗りました。そして忘れてはならない東日本大震災での石巻赤十字病院への業務支援を通して「赤十字臨床工学技士の顔の見える関係」が何よりも貴重なものだということを学ばせていただきました。

被災地で困窮している我々の仲間を何とかして助けたいという強い志を胸に、全国の赤十字病院の仲間達が同じ救護服をまとって入れ替わり立ち替わり支援活動を行ったことは日本赤十字社臨床工学技士会の「絆」をより一層強めるものとなりました。

そして二代目会長は秋田赤十字病院の医療技術部技師長の熊谷 誠氏が三期六年を務められ、独立し切れていなかった臨床工学部門の独立が加速され、技師長職も実現しました。これは当会から本社幹部に何度も働きかけてご理解をいただき、本社から全国赤十字病院院長連盟へ起案してもらい、一度目は承認されず、二度目でようやく承認された経緯があり、決して簡単に実現したことではありません。もちろん今まで地道に頑張ってきた皆さまの日々の努力があったからこそ成し得たことですが、何よりも日本赤十字社臨床工学技士会

としてまとまっていなければ実現できなかったことは明かです。

しかし、器ができたとしても中身がともなわなければ意味がありません。これからは他の組織の臨床工学技士よりも一段上の仕事ができるように臨床工学関連業務の標準化を図り、当会のポリシーである「赤十字のエンブレムに誇りと絆とプライド」を持って活動していきたいと考えております。

重ね重ね申しますが、赤十字臨床工学技士がひとつにまとまっていることが「我々の有形無形の力」となり、良くも悪くもこれから発生するであろうあらゆる出来事を推し進めたり解決したりする原動力になることは間違いありません。

当会のメンバーをみますと小生よりも遥かに能力が高く、全国的にも有名な方々がたくさんいます。そのような優秀な方々が赤十字の仲間としてたくさんいることは我々の「強み」でもあります。全国研修会では他では学べないようなことが学べる貴重な機会となっていることは参加された皆さまは感じていることだと思います。

会務を遂行するために会長、副会長、事務局長、事務局次長、常任理事、そして監事と役割は分担していますが私は役職に上下などなく、皆横一線だと思っています。どうか役員だけではなく会員の皆さまにも持っている能力を惜しみなく提供していただき、当会のレベルアップのためにお力を貸していただきたいと思います。

引き続き本社とは、臨床工学技士の存在価値を一段でも高めることを目指し、医療安全、共同購入、チーム医療推進などの分野において連携を取りながら、日本赤十字社、そして日本赤十字社臨床工学技士会のために努力する所存でございます。

末筆ではございますが、会員皆さまの益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、書中にて会長就任の挨拶とさせていただきます。

どうか引き続き、皆さまの日本赤十字社臨床工学技士会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

敬具